

(参考 2) 取組の指標

区分	指標 (注1)	単位	H16	実績 (H22)	目標 (H27)	備考
環境	河川環境改善協議会数	集団	3 (H17.5月)	4	5	H20.3月 野付湾流入河川 連絡協議会設立
	放牧を導入している農家の割合	%	54	68	70	実績値はH22年度アンケート 調査結果(有効回答219件)
	飼養頭数が2.0頭/ha以下の農家の割合	%	88.1	89.5	100	※下表参照
個性	新規就農者数	戸/年	2	1	4	H22年度: 町外就農2戸 H17~22年度: 町内就農計20戸 (平均3.3戸/年)
	認定農業者の割合	%	89 (H18.1月)	92 (H23.3月)	100	
	北海道指導農業士	人	10 (H18.3月)	14 (H23.3月)	15	H17~22年に2人が認定解除
	北海道農業士	人	16 (H18.3月)	19 (H23.3月)	23	
	家族経営協定	戸	66 (H17.3月)	110 (H23.3月)	147	
	污水处理人口普及率	% (人)	68 (11,451)	80 (12,946)	74 (12,423)	H16は、H16.3月時点 H22は、H23.3月時点
	酪農教育ファーム(注2)	戸	2	1	5	
信頼	ふれあいファーム(注3)	戸	1	1	10	
	グリーンツーリズム関連施設数(注4)	件	13	13	20	H17~22年に±5件

注1) 本指標は、別海町農業・農村振興計画の実現に向けた取組の参考となるよう、目標年次(平成27年)における努力目標として示したものです。

2) 「酪農教育ファーム」は、子どもたちが酪農体験を通じて、食と命の大切さを学ぶことのできる牧場です。

3) 「ふれあいファーム」は、農業・農村の魅力を感じてもらう交流拠点で、農作業・収穫体験、手作り体験、農産物の直売、動物とのふれあいなど、メニューは様々です。(北海道独自の登録制度)

4) 「グリーンツーリズム関連施設」とは、ファームイン、農業レストラン、農業体験、加工体験、直売、乗馬体験、農村公園、農業関連工場・資料館などの施設を対象とします。

草地面積あたりの乳牛頭数(成牛換算)と草地管理上の問題点・環境への影響

区分	飼養頭数 (頭/ha)	窒素排出量 (kg/ha)	草地管理上の問題点	環境 負荷	各飼養頭数区分の農家割合	
					平成16年	平成22年
1	1.0頭以下	105kg以下	マメ科牧草の窒素固定を最大限利用	小	16.1%	25.4%
2	1.0~1.5頭	105~160kg	窒素施肥の調整でカバーできる 全体としては安全圏		44.0%	43.0%
3	1.5~ <u>2.0頭</u>	160~210kg	混播マメ科牧草の維持は困難 チモシー単播草地を主体に考える		28.0%	21.1%
4	2.0~2.5頭	210~260kg	余剰ふん尿対策を考える		7.3%	7.1%
5	2.5頭超え	260kg超え	明らかなふん尿過剰	大	4.6%	3.4%

【資料提供: 根釧農業試験場】

【資料: 別海町調べ】